

平成29年度体力づくり推進計画 ＜全体計画＞

達成目標

- ・運動する楽しさを味わい、進んで運動する子どもを増やす。
- ・対全国平均比 1.02 以上もしくは、対自己 1 回比 1.02 以上の児童の割合を 80%以上にする。(昨年度 78%)

学校の状況

- ・市街地にある小規模校
- ・通学距離が短い児童が大半
- ・児童数に比べ運動場が広い

児童生徒の運動・生活習慣の実態

- ・体育授業時間以外に運動やスポーツをしている児童の割合 84.9%
- ・1日に運動やスポーツを1時間以上する児童の割合 48.5%
- ・決めた時刻に就寝する児童 76.9%
- ・決めた時刻に起床する児童 85.9%
- ・朝食を毎日摂取している児童 95.8%

広島県体力・運動能力、運動習慣等調査結果との比較から

- ・新体力テスト 48 項目中、県平均を上回っている児童の割合が男子 72.9%、女子 62.5%であり、昨年度に比べて上がった。
- ・学年別や男女別により、記録の偏りが大きい。
- ・シャトルランでは、9 項目上回り、3分間走継続による持久力の高まりがみられた。
- ・昨年度の自校平均(57.3%)と比べると、96 項目中 75 項目 (78.1%) 上回った。

実態把握

児童生徒の実態や体力・運動能力調査等から明らかになった課題

- ・体育授業時間以外に運動やスポーツをしている児童の割合が 85%近く、特定の運動能力に優れているが、バランスの良い体力・運動能力向上に反映されていない面がある。
- ・通学距離が短く、1日の運動量が少ないため、運動習慣の定着が図りにくい。
- ・外遊びをする児童は多いが、ボール遊びをしている児童が限られており、投力が弱い。女子は、6 学年中 5 学年が平均より悪く、2 回目の体力テストの実施に向けて取り組み、改善が見られた。
- ・高学年では委員会活動等の仕事があり、休憩時間に外遊びの時間を確保することが難しい面がある。
- ・体力の元となる、「早寝」「早起き」「朝ご飯」など基本的な生活習慣の定着に課題がある児童が固定化している。児童・保護者への継続的な働きかけが必要である。

取組事項

- ① 体育科での取組
 - ・体育的行事等（運動会・新体力テスト・水泳検定・陸上記録会・持久走大会・なわとび検定）を核とした体育科年間指導計画を作成し、**指導者は明確な目標**、児童には個人の目標をもたせ、主体的に授業に取り組ませる。
 - ・体力テスト・水泳・持久走・なわとびについては、6年間の記録を記入させ、児童の運動する意欲を高める。
 - ・体育の授業の中で、投力・走力・持久力等を向上させるサーキットトレーニングを継続して行う。
- ② 委員会活動での取組
 - ・運動委員会が中心となって、毎日大休憩後、「3分間走」を1年間継続して行う。
- ③ 外遊びの奨励
 - ・毎月金曜日に2回、朝15分間、学級で考えた外遊び及び**縦割り遊び**をする場を設ける。
 - ・水曜日の昼の休憩時間は、時程を工夫して、40分間の「ロング昼休憩」とする。
 - ・全学級で、「朝の会」の中で、「体力づくり」のコーナーを設け、筋力・柔軟性を高める運動を継続して行う。
- ④ 家庭との連携
 - ・毎学期「元気っ子週間」を設け、「早寝」「早起き」「朝ごはん」を家庭との連携を継続していく。

期待される効果

- ・目標を持って運動に取り組む児童が増える。
- ・体を動かすことが好きな児童が増える。
- ・外遊びの**バリエーションが増え**、さらに盛んになる。
- ・焦点を当てて取り組む「走力」「持久力」「投力」「柔軟性」の向上が期待できる。
- ・「早寝」「早起き」「朝ごはん」が定着する児童の増加が期待でき、**保護者啓発が期待できる。**

体制

- ・教頭を責任者とした「体力向上推進チーム」を構成する。メンバーは、教頭、体力・運動能力向上コーディネーター、保健主事、体育主任、養護教諭、低・中・高学年担任（体育主任・保健主事が該当する場合は兼ねる）から各1名で構成する。
- ・原則、学期1回の定例会議を開催し、児童の体力の状況について検討・協議し、全職員に発信する。

推進組織

平成29年度体力づくり推進計画 <年間指導計画>

校番(14) 呉市立本通小学校

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する楽しさを味わい、進んで運動する子どもを増やす。 ・対全国平均比 1.02 以上もしくは、対自己 1 回比 1.02 以上の児童の割合を 80%以上にする。(昨年度 78%)
-------------	--

